

平成27年度 第1回宇都宮市保健衛生審議会 議事録

■ 日 時 平成28年2月18日(木) 午後1時30分～午後3時00分

■ 場 所 宇都宮市役所 14階 大会議室

■ 出席者

1 委 員 (21名)

金崎委員, 馬上委員, 中村委員, 小橋委員, 片山委員, 北條委員, 石崎委員, 菊池委員, 糸委員, 吉田委員, 寺内委員, 斎藤委員, 黒子委員, 小野委員, 山口委員, 増淵委員, 青木委員, 関山委員, 細谷委員, 戸村委員, 大山委員 (委員名簿順)

※欠席委員: 福田委員

2 事務局 (23名)

[保健福祉部] 部長, 参事兼保健所長, 保健医療監, 保健福祉部総務担当主幹

[保健所総務課] 課長, 課長補佐, 地域医療グループ係長, 職員1名

[健康増進課] 課長, 課長補佐, 健康づくりグループ係長, 健康診査グループ係長, 職員1名

[保健予防課] 課長, 課長補佐, 保健対策グループ係長, 職員1名

[生活衛生課] 課長, 食品衛生グループ係長, 職員1名

[食肉衛生検査所] 所長, 衛生指導グループ係長

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者・記者 なし

■ 会議経過

1 開 会

- ・ 委員の過半数が出席しており, 本審議会は有効であることを報告
- ・ 「附属機関等の会議の公開に関する要領」に基づき会議公開について説明, 委員了承
- ・ 所定の手続きにて事前に周知の結果, 傍聴希望者・記者はなし

2 あいさつ (保健福祉部長)

3 新任委員紹介

4 会長・副会長選出

- ・ 当審議会規則に基づく委員の互選により, 会長に片山委員, 副会長に馬上委員を選出
- ・ 会長より就任あいさつ

5 議事

- (1) 「第2次健康うつのみや21」の取組状況について
- (2) 地域療養支援体制の構築に向けた取組について
- (3) 食肉の安全性確保について
- (4) 本市における自殺対策について

6 委員からの主な意見・質問等（要旨）

(1) 「第2次健康うつのみや21」の取組状況について

●委員

- ・以前、テレビ番組で横浜市の「ウォーキングキングポイント事業」が紹介されていたが、40歳以上の市民のうち希望者に歩数計を配布し、歩数に応じてポイントを付与し、一定ポイントがたまると、抽選で商品券などがもらえるというものであった。私も毎日歩かし、効果があって長続きすると思うが、宇都宮市でもこのような取組はできないか。

○事務局

- ・別紙1「『第2次健康うつのみや21』計画の概要と主な取り組みについて」の下段、「基本方向4」の「⑩地域のつながり・支え合い」の主な取組状況に、「健康づくり推進組織によるウォーキングマップの作成活用支援」とあるが、本市では、地域ごとに健康づくり推進員の活動を支援しながら、各地域の観光や歴史などの地域資源を盛り込んだウォーキングマップを作成してきた。
- ・平成27年4月以降は、市広報紙において、作成されたウォーキングマップを1月に一つずつ掲載し、広く市民に紹介をしており、このような取組を通じ、市民に歩くことを啓発している。
- ・また平成27年度は、別紙3-1～3-3で紹介した、ストレッチや筋力運動などのオリジナル運動を作成したところ。
- ・委員よりご提案のあったポイント制度については、平成29年度に開始できるよう、横浜市の事例も含め、様々な地域の情報を収集・検討し、準備を進めていきたい。

●委員

- ・以前の新聞報道で、県内の一部自治体で、健康診査を受けるとプレゼントがもらえる特典付き健診制度の紹介がされていた。宇都宮市では、このような仕組みはないのか。

○事務局

- ・本市における特典付き健診制度については、別紙1の中段「基本方向2」の「⑦NCD（非感染性疾患）」の主な取組状況の中にある「健診PR応援事業」があり、例えば、クリーニング店や入浴施設の割引クーポンを受診者に配布することを平成26年度から開始している。
- ・現在も、事業への参加企業数の増加やサービス内容の充実に向け、取り組んでいるところ。

●委員

- ・これも以前の新聞報道で知ったが、宇都宮市の健診の案内について、読みやすさを工夫し、第三者機関に賞をもらったとのことだが、これは良い取組だと思う。

○事務局

- ・ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会から「2014アワード」を頂いたが、普段から、「いかにわかりやすく伝えられるか」ということを念頭に取り組んでいるところであり、まだ道半ばと考えているが、ご発言を励みになお一層取り組んでいきたい。

●委員

- ・別紙1の中段「基本方向1」の「④歯・口腔の健康」の主な取組状況の中に「前年度75歳の後期高齢者を対象に歯科健診を実施」とあるが、内科で健康診査には毎年行くものの、歯科健診があることを知らない人が多いと思う。市で健診を通知するチラシなどの中に、歯科健診もあるということを併せて知らせると良いと思う。

○事務局

- ・歯科健診については、30歳から75歳までの5歳刻み方が対象となっており、それらの方には受診券を送っている。70歳以上の方については、年1回無料で健診を受けられるので、そのことも受診券で通知しているが、もっと知っていただけるよう、普及に努めていきたい。

●委員

- ・健診の機会が年に2回あると聞いたことがあるが、どうか。

○事務局

- ・健診の機会は、年に1回のみである。

●委員

- ・先ほど話題に出たポイント制度について、宇都宮市では他にも、社会福祉協議会でも取組を行っている。内容は、地域の活動に参加すると1回につき1つシールがもらえるというもので、私の地元では、皆で公民館を掃除した後にウォーキングに出かけたり、料理や運動をしたりなど、月に3度ほど活動しており、皆さんが喜んで参加している。保健所だけでなく、地域でもこのような仕組みがあるので、紹介したい。

○事務局

- ・ただ今の件は、別紙1の下段「基本方向3」の「⑨高齢者の健康」の主な取組状況の中にある「高齢者等地域活動支援ポイント事業」のことであり、市の福祉政策の中で、社会福祉協議会を主体として実施しており、「第2次健康うつのみや21」の中でもこの事業は位置づけをし、連携しているところである。

◎会長

- ・栃木県の肥満率は全国でも高く、最近の国の調査（学校保健統計調査）でも、小学3年生と中学1年生では全国ワースト1ということなので、食事改善や運動の動機づけに一層取り組んでいただきたい。

(2) 地域療養支援体制の構築に向けた取組について

●委員

- ・看取りについて検討していることについて、先日テレビ番組でがん患者の話を観たのだが、医療機関とご家族の間で治療や看取りについて複雑なやりとりがあり、個別に事情が異なることに行政がどの程度関与していけるのか、難しいのではないかと感じている。部会の検討は始まったばかりと思うが、どのように考えているのか。

○事務局

- ・在宅での看取りということについては、ご本人の意向はもちろん、ご家族も看取りについて理解したうえでないと出来ないものであると認識している。
- ・何が何でも在宅で看取するという考えではなく、看取りの選択肢として在宅もあるというのを、まずは市民の皆さんに知っていただきたいと考えている。

●委員

- ・看取りはデリケートな問題を含むことと思うので、行政からの決めつけでなく、色々な意見を聞きながら、慎重に進めて頂きたい。

◎会長

- ・在宅医療の中で、看取りの部分は非常に難しく、昔は大体、自宅で看取りをさせていただいていたが、今ではほとんどが病院になっている。
- ・流れを逆行する形となるが、自宅で最期を迎えたいという方が多いと聞いている。
- ・がんなどの疾病によって、看取りまでの期間や対応も異なってくるなど複雑なものがあるが、徐々に検討をしていくので、また経過をお知らせしていきたい

(3) 食肉の安全性確保について

●委員

- ・資料1ページの下段の表の右側に、「食肉取扱施設を対象に重点監視」とあり、焼肉施設についてだけ監視の未実施が16件あるが、これは今年度中にすべて監視を実施するという事なのか。

○事務局

- ・現時点ですべての施設の監視を完了している。表中はあくまで平成28年1月末現在の数字を記載したものである。

(4) 本市における自殺対策について

◎会長

- ・資料2ページ中段の「(4) 自殺に至る原因・動機」について、「健康問題」が最も多いとしているが、この中にはうつ病なども含まれるのか。

○事務局

- ・ご質問のとおり、「健康問題」には、うつ病などの精神疾患も多く含まれる。

●委員

- ・資料1ページの表1を見ると、平成10年と平成21年のところで自殺者が急増して

いるが、考えられる要因はあるか。

○事務局

- ・経済問題が大きく関与していると考えている。自殺と経済問題は関わりが大きいといわれており、実際、バブルが崩壊した後の平成9年には大手証券会社をはじめ大企業の倒産が相次いでおり、平成20年頃には世界的金融危機を迎えており、これらが自殺数の増加に影響していると考えている。

●委員

- ・自殺の大きな要因の一つに経済問題があるとすれば、自殺対策に必要な経済的支援はあるのか。

○事務局

- ・大きな自殺対策の中には経済的支援も含まれており、保健の分野における自殺対策と経済的支援とは車の両輪のように動いている。景気が悪化しても自殺者が出ないことを主眼にして、自殺対策を進めていきたい。

7 その他

(議事以外に対する質問等)

●委員

- ・介護職員が、入所者の高齢者を殺害する事件が起きたことについて、個人の問題が大きいことは言うまでもないが、介護の人員不足が一因かとも思う。人員不足が生じれば職員の質の低下も避けられないと考えるが、宇都宮市では、介護職員の質の向上などの対策や、職員による虐待の実態がどの程度把握されているのか。

○事務局

- ・介護の人員不足については、国において介護離職ゼロとして、介護のために離職することと介護職員が離職することについて、両面から防ぐ動きが出てきている。
- ・その中で、本市においては介護職員への研修を実施し、スキルアップを図っているところ。
- ・本市においては、介護施設における虐待はゼロである。ただし、家庭内での虐待については、年間50件ほど報告が入っている。

●委員

- ・健康づくりについては、個々人にとって時間やお金を割くことが難しい面や、数多くの取組を一人ひとりがやっていき、成果を上げるのが難しいと思う。
- ・そこで、健康づくりに関する大会やイベント等を開催し、活動の発表や表彰などを行うことで、機運を盛り立てつつ、今回紹介しているような各種情報を発信することができるのではないか。

○事務局

- ・本市では、「食育フェア」を毎年実施しており、平成27年度で10回目となった。食育というタイトルだが、栄養・運動・休養のバランスのとれた生活を送れること、健康診査をきちんと受けることなどを含め、情報を発信している。

- ・平成28年度においては、市制120周年ということもあり、委員のご提案を踏まえながら、「食育フェア」の内容充実を図れるよう検討を進めていきたい。

●委員

- ・食のリスクについて、鶏の生肉がこれほど高い割合で汚染されていることに驚いた。
- ・また、食のリスクについては、これ以外にもノロウイルスがあるが、食品を介した食中毒以外にも、様々な感染経路があるものであり、栃木県では、11月から翌3月までノロウイルス予防推進期間として、色々と啓発を行っているが、宇都宮市ではどのようなことをやっているか。
- ・また、先ほどの議事にあったような食中毒予防の啓発については、どのように広めていくのか。

○事務局

- ・ノロウイルス対策は、非常に重要なものと受け止めており、手洗いの有効性やおう吐物の適切な処理などについて、大規模調理施設を中心として、対策の普及啓発に努めている。

◎会長

- ・今年はノロウイルスが幸いと流行していないが、医師会においては、学校等でも、ノロウイルスやインフルエンザなどについて、学校医から啓発をしてもらっている。
- ・感染予防の具体策については、今後とも医師会を通じて取り組んでいきたい。

8 閉会